

戸村 光宏(とむら みつひろ)先生のプロフィール

旧国立栃木病院にて研修、勤務。
その後、1975年に戸村医院を継承して現在に至る。

栃木県保険医協会会長、塩谷郡市医師会副会長
専門科目・領域 内科(内視鏡専門医・東洋医学専門医)

◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

1982年に塩谷郡市医師会講座で獨協医科大学北島敏光講師(現教授)の講義を聴講したのが出会いです。

その後、当時国立栃木病院産婦人科医長の村田高明先生主催の漢方勉強会に参加して、本格的に漢方とかかわるようになりました。



◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

漢方的診断を的確に行うには、患者さんの様々な訴えに耳を傾けざるを得ません。

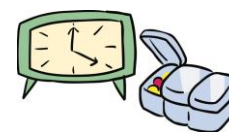
西洋医学では対処できないため、無視されがちな愁訴も漢方では重要な治療のポイントとなるからです。

そのために、漢方を使うかどうかはさておき、患者さんとの意思の疎通がことのほか良くなりました。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

診断の拠り所は西洋医学です。

治療の方法は、最適と思われる治療が漢方であれば漢方薬を西洋薬が最適と思われる場合は、そちらを使用することとなります。



◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

今、医療制度が改悪されようとしています。財務省は医療費節減を方針としています。財界は利益を目指すために株式会社参入を目指しています。

国民皆保険は制限され、混合診療によってのみ株式会社は利益を得る事になります。というわけで、漢方薬は真っ先に保険の枠から外され、混合診療のもと、患者負担とされるでしょう。

そのことを防ぐには、漢方医学のみならず、今の医療制度のしくみが諸外国とどう違うのか、正確に国民に知ってもらうことが大切です。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

漢方を勉強し始めて一番初めに飲んだ麦門冬湯で、長引いた咳がすぐに治ったこと。

ひとつき位して、桂枝湯服用で風邪症状が20分程でとても気分良くとれたこと。



◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

現代医学を十分に学ぶこと。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方は万能ではありません。

◆座右の銘、お好きな言葉などありましたら教えてください

「座右の銘は持つな」

◆その他、ご意見ご感想などありましたらお聞かせ下さい

漢方に限らず、新薬の検証に、もっと現代科学の粋を集めた方法を利用して欲しい。



注意:先生へのインタビューは、当会が2004年11月に行った内容です。